

## 【福島市】

会 議 名	平成31年1月31日定例記者会見
日 時	平成31年1月31日（木） 午前10時15分～10時41分
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長	<p><b>開会</b> 定刻になりましたのでただいまから定例記者会見を始めます。本日は発表事項が4件となっております。それでは市長から一括してご説明申し上げます。</p>
市長	<p><b>市からの発表事項</b>  <b>（1） 風格ある県都を目指すまちづくり構想の実現に向けて！</b>  <b>～まちづくり懇談会開催～</b>  はい、おはようございます。私のほうから4件発表させていただきます。まず1つ目は、「風格ある県都を目指すまちづくり構想の実現に向けて！～まちづくり懇談会開催～」についてです。昨年末に公共施設の戦略的再編整備や中心市街地のまちづくりに関する「風格ある県都を目指すまちづくり構想」を発表させていただきました。既に商工会議所青年部や福島市中心市街地活性化協議会などといった関係の深いところ、ご要望のあったところには説明をし意見交換をさせていただいていますが、一般市民の方向けに私も参加してまちづくり懇談会を開催します。日時は2月15日（金）18時30分～20時まで市民会館第2ホールで約100名程度で開催します。参加申し込みは資料に書いてある通りですのでご参照ください。  なお、これに限らず今後市民に対する出前講座的なものを充実させていこうと思っておりますので、まちづくりに関しても市民の皆さんのご要望に応じてご説明をし、意見交換の場を設けていこうと考えています。また、団体やさまざまな集まりで話を聞きたいということであれば、市としてできる限り対応していきたいと思っております。1点目は以上です。</p> <p><b>（2） 福島圏域11市町村を巡って豪華賞品を当てよう！</b>  <b>～ふくしまイレブンめぐりスタンプラリー開催～</b>  それから2点目は、福島圏域11市町村を巡って豪華賞品を当てようということでスタンプラリーを開催します。  既に圏域の事業としては、広域の婚活ツアーを2月3日に実施することになっていますが、第2弾として「ふくしまイレブンめぐ</p>

## 【福島市】

りスタンプラリー」を開催します。この時期どうしてもお客さんが少なくなりますけども、ぜひこの機会に11市町村を回っていただき、道の駅や直売所へお寄りいただき、その地域地域の魅力を発見し楽しんでいただきたいと思います。その周った数に応じてプレゼントを差し上げることにし、抽選で55名、総額11万円相当の各市町村の特産品が当たるというものです。実施期間は2月9日～3月10日までです。

皆さんにもお配りした台紙にスタンプを押していただくこととなります。スタンプは各市町村それぞれの道の駅に置いてありますが、道の駅がないところはそれぞれの直売所に設定しています。なお、二本松市の場合は道の駅が4つあるということで4カ所スタンプラリーの対象にしています。福島市の場合は土湯に道の駅があるのですが、いかんせん西の端っこ、しかも高い場所にあるため、皆さんが周りやすい場所ということで、市内のこちら2カ所に設置してあります。複数カ所あるところ、例えば福島市であれば「ふ」というスタンプだけが置いてあり、3カ所周ってもひとつしか押せません。なのでどれだけ11市町村を回っていただいたか、押していただいたかということになります。

応募締め切りは3月13日です。賞品については、一番多い11カ所回っていただいた方にはA賞として各市町村の5,000円相当の品をひとつずつ、B賞はスタンプ7個以上で2,000円相当の品、C賞はスタンプ5個以上で1,000円相当の品をご用意しています。前回、ふくしま三湯物語を発表させていただきましたが、市内の温泉めぐりはふくしま三湯物語、そして広域的には少し足を延ばしてこのふくしまイレブンめぐりでお楽しみいただければと思います。2点目は以上です。

### （3）2月は住宅用火災警報器設置促進強化月間！！

～一般家庭の設置率向上に向け緊急調査を実施します～

それから3点目になりますが「2月は住宅用火災警報器設置促進強化月間！！～一般家庭の設置率向上に向け緊急調査を実施します～」というものです。

最近福島県内で住宅火災が多発して、多くの方が逃げ遅れて犠牲になっています。今朝も市内の郷野目で1名お亡くなりになりました。

このような犠牲者を減らすために、本市ではこの住宅用火災警報器の設置率の低い地域を抽出して設置状況を把握し、設置と維持管理を促すために消防職員による戸別訪問を緊急的に実施します。2月は資料の1にあるように飯坂消防署管内、調査世帯651世帯を2月9日～10日にそれぞれ記載してある町内会を対象に行います。2は福島南消防署管内、調査世帯654世帯

## 【福島市】

で日時や地域はそれぞれ記載の通りです。3は福島消防署管内、調査世帯1,040世帯で南向台の一部を対象とします。最もこれで終わりというわけではなく、今後段階的に市内全域の一般住宅を消防職員が戸別訪問して設置率向上に努めていきます。

なお、住宅用火災警報器の設置率は昨年6月1日現在で福島市は75%、福島県で74.6%、これは全国43位で下から5番目という状況です。全国平均は81.6%です。県内では皆さんご承知の通り昨年11月小野町で7名が亡くなりました。12月17日には本市で2名、12月19日には須賀川市で2名が逃げ遅れて犠牲になりました。いずれも住宅用火災警報器が設置されていなかった可能性が高いと見られていて、こういった犠牲をなくすために設置率向上に向けて力を入れていきたいと思っています。

市内の火災の状況は本年に入って今日まで10件発生しています。これは昨年の同期に比べると8件も増えていて、お亡くなりになった方は2名ということで、こちら昨年の同期に比べて1名増となっています。ちなみに昨年1年間でお亡くなりになられた方は7名ということで、その前年に比べると2名多くなっていたという状況です。

皆さまにお配りしている住宅用火災警報器に関するチラシも、市政だより2月号に合わせて全戸に配布していて、チラシの2段目の囲みにあるように「平成23年6月1日からすべての住宅で住宅用火災警報器の設置が義務化されています」となっていますが、いま現在75%の設置率となっています。総務省消防庁の調査によると資料P8のチラシの中段にある通り、住宅火災100件あたりの死者数で住宅用火災警報器の有りと無しとでは約4割減という統計がでています。福島市内で発生した建物火災での住宅用火災警報器による効果があった事例はその下の①と②に書いてありますのでご参考ください。

住宅用火災警報器は設置すればいい、というだけではなく維持管理を適切に行っていくことが大事です。作動するかどうかをしっかりと確認することが大切です。次ページの中段やや下の帯にもあるように、住宅用火災警報器は約10年を目安に交換をおすすめしています。ぜひ自分の身を守るためにも住宅用火災警報器の設置、適切な管理をお願いするとともに、消防職員がしっかりと回って歩いて促していきたいと考えています。3点目は以上です。

### （4）子育て世代のお父さん、お母さんとの意見交換！

～第4回「ふくしま元気トーク」を開催します～

それから4点目は、今年度から始めているふくしま元気トークの第4回を開催するというものですが、今回は子育て世代のお父さ

【福島市】

	<p>んお母さんと意見交換をします。こういった方々と子育て環境の現状や課題、子育てしやすい環境づくりへの意見・期待などについてお話しいただき意見交換をしようというものです。</p> <p>日時は資料の3にあるように2月2日（土）10時～11時30分までとなっています。これは公募などで応募いただいた子育て世代の保護者11名にご参加いただくこととなります。いずれも中学3年生以下のお子さんをもつ保護者の皆さんです。</p> <p>ちなみに資料の7にあります。今回の元気トークは一般公開ということで一般の方の傍聴が可能です。場所は保健福祉センター4階の乳幼児健診ホールで実施します。広い場所を確保して、子連れで来場される方にもお困りにならないように保育士による預かり保育も実施します。ぜひ子育て世代の方々にご参加いただければありがたいです。預かり保育を希望の方は前日の1日17時までにご連絡いただければと思います。なお、最初の応募の際、預かり保育はありませんと周知していましたが、預かり保育は実施しますので改めて周知いたします。私からは以上です。</p>
<p>広報課長</p>	<p><b>質疑応答</b></p> <p>それではただいまの発表事項について、質疑応答に移ります。ご質問がありましたら挙手指名ののち、社名とお名前をおっしゃっていただきご発言をお願いいたします。それではご質問をお願いいたします。</p>
<p>河北新報</p>	<p>河北新報の関川です。スタンプラリーについてですが、この台紙は道の駅や各スポットで入手できるのでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、そうです。</p>
<p>河北新報</p>	<p>スタンプラリーということで参加された方が施設を巡るわけですが、結果を見て市や圏域として人の動きの分析などにも使うのでしょうか。</p>
<p>政策調整課</p>	<p>台紙のはがき部分にアンケートがあります。スタンプにも番号が振ってあり、どこで押印したかなどで分析したいと思っています。</p>
<p>河北新報</p>	<p>分析というのは人の動きを、ということでしょうか。</p>
<p>政策調整課</p>	<p>限られた紙面なので情報にも限りがあるのですが、どこで押印したか、数、そのあたりを収集したいと思っています。</p>

## 【福島市】

河北新報	福島圏域は3県にまたがっていますが、県境というのは無いように有るようで、人の心理的に県境をまたぐというのはハードルが高いのかなと思います。このスタンプラリーをやることで「福島圏域11市町村」という圏域をつくっていたとしても、もしかしたら3県のまたがり弱いのかなと見える部分があると思うのですが。
市長	そこは今後分析してみることになりますが、現実には白石の市長さんから言われているのは、白石の皆さんは福島圏域だとおっしゃいます。こちら側からお願いして入ってもらったというよりは、向こうからも是非というかたちでご参加いただいています。私がよく聞くのは白石の皆さんは国見の道の駅に車で行く。我々が思っているより圏域の壁は無いのかなと思います。今回米沢市にも入っていただいています。米沢市の道の駅は大変人気で、福島からもかなり足を運ばれていると聞いています。なのでこの機会にまた行かれる方もいらっしゃると思いますし、米沢市のほうからもこちらに来ていただいて。高速道路が無料というのが非常に大きなメリットだと思います。普段の行動範囲を広げて福島圏域を周っていただければ嬉しく思います。
河北新報	この11市町村で福島圏域というのをつくって、今回スタンプラリーの開催となりますが、いろいろ実施していく目的を改めてお聞かせください。
市長	そもそもこの11市町村で広域連携推進協議会をつくったのは、圏域全体の活性化や定住の促進ということで取り組んでいます。こういった催しを実施をすることで圏域全体を皆さんにより多く知ってもらい、活性化に少しでも役に立てば嬉しいです。ただこの取り組みは始まったばかりなので、これをきっかけにさらに11市町村の連携が深まればありがたいと思っています。
読売新聞	読売新聞の服部です。住宅用火災警報器の設置についてですが、緊急調査では具体的にどのようなところを確認するのでしょうか。
消防本部	緊急調査では、まず設置してあるかどうかという点と、平成18年から設置されるようになりましたがそこから10年以上経過していますので、設置してある住宅の維持管理の動向を調査して、維持管理および設置の促進を進めていきたいと思っています。

## 【福島市】

読売新聞	作動確認を行う場合もあるのでしょうか。
消防本部	はい、作動確認は原則として設置者のほうでヒモを引くなりボタンを押すなりをして、アナウンスされるメッセージが流れるかどうかの確認をしていただきます。光電式だと作動確認が難しいとなれば、職員が実際にお邪魔して作動確認をします。不良の場合については交換を推奨させていただきます。
読売新聞	それから市長にお伺いしますが、設置率でいうと県の平均より市の方が少し高いと出ていますが、全国に比べるとかなり低くなっています。このあたりを今後どうしていくかお考えはありますか。
市長	これまで福島市は、設置率が県平均より下回っていました。ただ年々上がってきて、要因は分かりませんが県平均に並んできました。市民の命を守っていくためにも住宅用火災警報器は重要で、なんといっても義務です。消防職員が実際に現地へ訪問調査をするなど設置率向上に努めていきたいと思えます。
広報課長	他にありますか。
福島民報	福島民報の吉田です。資料にある「住宅用火災警報器設置率の低い地域を抽出し」とありますが、その低い地域とはどのように出しているのでしょうか。
消防本部	設置率の低い地域の選定については、以前各消防署の方で一般家庭防火指導というのがあって、主に3月と11月に実際に訪問したお宅にアンケート調査をして、その地区に対して設置率が低いということを把握し、その地区を選定したという運びになっています。
福島民報	設置率の低い地域はあくまでアンケート調査で分かったもので、その低い地域をさらに個別訪問して設置を促すという趣旨でしょうか。
消防本部	はい、その通りです。まずはその選定した地域で実施をして、徐々に他のところへ対象を広げて、最終的には本市全体を把握して指導および公言、維持管理を進めていきたいと思えます。
広報課長	発表事項についてのご質問はよろしいでしょうか。それではその他のご質問がありましたらお願いします。

## 【福島市】

市長	<p>そういえば資料をお配りしていましたが、以前中心市街地の公共施設整備検討のための委員の公募を行いますとお話しさせていただきました。実際には議会の翌日の23日から公募は行って、皆さまにはきちんとお知らせしていなかったと思いますが、こういった形で行っていますのでまたご報道いただければありがたいです。</p>
広報課長	<p><b>閉会</b> ご質問がないようなので、以上を持ちまして定例記者会見を終了します。</p>